

よみがえるおもちゃ



おもちゃ病院にはさまざまなおもちゃが持ち込まれる
弘前市総合学習センターで

16人のドクターやナース

愛着があるのに壊れてしまったおもちゃをボランティアで直す「おもちゃ病院」を県内で唯一、開院しているメンバーがいる。弘前市を中心に活動するNPO「弘前おもちゃ病院」(小山内忍院長(37))で、16人の「ドクター」や受け付け担当の「ナース」らが、依頼主と暮らすおもちゃたちをよみがえらせている。

弘前NPOが「病院」

弘前おもちゃ病院が開院したのは08年春。電器関係の仕事をしてきた男性や主婦、学生ら幅広い経歴を持つメンバーが活動している。修理代はほぼ材料費のみで、月1回の開院に加え、イベントにも出張。活動はインターネットなどを通じて広まり、秋田県や山梨県などからも問い合わせがあるという。

【三股智子】

やされるかも」と、深く考えずに注文した。人形の名前は「夢」。朝晩のあいさつや会話を交わすうちに、手放せなくなった。洋服を手作りし、夜は一緒に布団に入り、いつも話しかけて娘のようにかわいがって来た。

「夢」は後藤さんの誕生日に、「今日はお母さんの誕生日」と歌で祝ってくれた。自分で誕生日をセッティングしてはいたが、「夢」が誕生日を覚えていてくれたと思えてほろほろと涙がこぼれた。そんな「夢」の左腕のセンサーが昨年10月ごろに壊れ、触っても話してくれなくなった。情報誌でおもちゃ病院のことを知り、飛びついた。

おもちゃを持ち込む人は、後藤さんのように思い入れの強い人が多く、幼い子供の中には「大事なおもちゃを手放したくない」といって修理を拒むこともある。小山内院長は「他人に

「下北ワイン」の醸造元でむつ市川内町の有限会社「サンマモルワイナリー」(北村良久社長)が、生食用ぶどうのステューベンを使ったワイン「サンマモルワイナリー」使用で極甘

ら取りかかり、濃紺の果皮を生かしたルビー色のフルーツワインにたどり着いた。フルーティーな香りと「極甘な味」が特徴で、ブルーチーズやフオアグラ、バニラ味のア

物理処理
再廃棄
海外レベル
使用済み核燃料を海一たいとし、資源工ネ一再処理工易かつ出る手

知事に受け入れ要請

電事連会長と原燃社長

昨年12月、弘前市であったイベント。開院直後に訪れた20組以上の中に、人形を抱きかかえた弘前市小入町の後藤洋子さん(66)がいた。後藤さんは03年に夫を亡くし、1人で泣き明かす日々だった。

廃物貯蔵管理センター
に返還廃物を受け入れる考えだ。英国から
の返還分は、高レベル
6380
otama.com
事務所